

放出は、工業用材料として市販されている酸素の価格から評価すれば、四兆八千七百億円にも当ると言われています。

また、酸素放出のほか防音、防火、防風等の効果は想像以上に大きいものがあり、公害の拡大や環境汚染が深刻化する中で、環境緑化がいかに大事であるかがわかります。

県内樹芸林業

ここで県下の樹芸林業をながめてみると、四百年の歴史を有する植木市、優れた技術の伝統、みどりを愛する県民性その他から、樹芸林業発展の素地は十分にあるわけです。

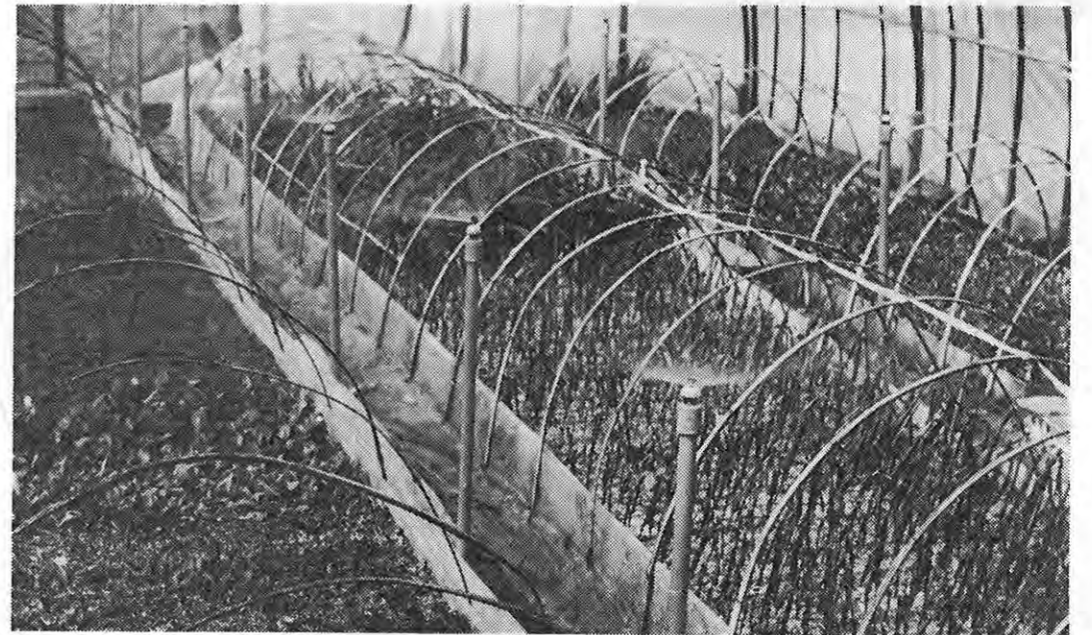
日本の樹芸林業は、これまで安行、稲沢、池田宝塚、久留米田主丸を四大生産地として他の追随を許しませんでした。これらは、大消費地を背後にした近効地園芸として、長い歴史の過程で発展したからです。

その点、熊本県は地理的条件に恵まれず、みるべきものがないまま現在に至りました。しかし、これは高速自動車道をはじめ、今後の交通網の発達によって十分克服できるものです。一方四大生産地は宅地化が進み、地価の上昇が甚しく、栽培面積の拡大はすでに望めないの対

し、比較的地価の安い熊本県では、面積を広げることがまだまだ可能であり、さらに本県の気候風土は樹木の生長に最適という有利性があります。熊本県の樹芸林業の、前途は極めて有望といえるわけです。

このようなことから、いま、熊本県の樹芸林業は各方面から注目されています。ここで本県の状況を概観しますと、甲佐、城南を中心に生産団体四十三、造園団体四、組合員数二千二十三戸、栽培面積二百五十ヘクタール、養成苗木四百万本、市販出荷可能なもの百五十万本で生産額は七億五千万円です。

栽培樹種は緑化樹、庭園樹等二百五十樹種、山の三十樹種で、生産される主なる樹種は、クス、カシ、ツバキなどの常緑樹、サクラ、ヤナギ、イチヨウなどの落葉樹、黒松、赤松、ヒマラヤシダなどの針葉樹、ヤツデなどの灌木類、ツツジ、キョウチクトウなどの花木類で、現在の県内需要は約二百万本、県外から成木、稚苗あわせて年間百万本が移入されていると推定されています。そこで、昭和四十六年十一月設立された熊本県樹芸農業協同組合を育成強化し、農林漁業樹苗養成資金などの金融措置により、生産基盤の拡大、



集 団 産 地 化 を め ざ す 樹 芸 林 業

集 団 化 育 成 地 域 割 図



将来は、これにより公害に強い緑化樹

生産技術の向上によって良苗を安く生産し、他県産品との競争をさせて、特産樹生産により恒久産業として育成することを考えております。そのためには、地域的に資源調査を行ない、地域別生産計画を作ることが必要であり、新年度は樹芸林業集産地化事業を考えております。これは、県内を六地域に分けて約二十の集産地をつくらうというもので(別図、別表参照)、地域ごとに特色を出すために地域指標樹種を定めて将来の競争に耐えうるようにしようというものです。

木の生産に主眼をおき、クス、ツバキ、カシ、サザンカなどの特産樹を生産して昭和五十五年には栽培面積千ヘクタール養成本数二千万本、生産五百万本、生産額二十五億円を目指しています。ただ当面の問題として、特異性ある樹芸林業を恒久的に産業化するためには、実生や挿木園を積極的に拡大する必要がありますが、高木は養成に十年以上を要しますので、山もの生産もあわせて考える必要があるでしょう。

近年緑化の問題が急激に高まったため、緑化用樹木の需要も増大し、はなはだしく需給のアンバランスを生じている。従来の箱庭式の緑化から環境保全機能や保健休養を確立する緑化が基調となりつつある。そこでこの需要に応えるべき県内の樹芸林業の現状がどういふもので、将来はどうなのか。これに対する取組み方は……

緑化ブーム

戦時中に乱伐された山野と焼土と化した街に緑を取り戻すため、全国的に緑化運動が展開され始めたのが昭和二十五年。それからすでに二十数年が過ぎました。

当初は、「荒れた国土に平和な緑」のキャッチフレーズに表わされるようにまず何よりも山野に造林して、治山治水や国土保全を図り、あわせて経済の振興を期することでした。

しかし、近年産業経済の高度成長による各種のヒズミから、緑化はさらに新しい意義をもってきました。

個人住宅の建築の伸びにともない造園が一般化し、需要は年毎に伸びる一方、公害や環境汚染が次第に深刻化してきた

ことと、地域開発の進行によって新たな緑化需要が高まり、都市周辺、高速道路、工業団地、空港周辺などの各地に緑化ブームを巻き起こしています。

緑の効用

山野を緑化することが公共的、経済的にいかに効果があるかは論をまたないのですが、ここでは環境緑化の効用を述べてみましょう。これは勿論山野緑化にも当然共通する点が多いわけです。(一) 酸素を放出する。(二) 炭酸ガスを吸収する。(三) 亜硫酸ガスその他の有毒ガスを吸収する。(四) 浮遊塵の附着による大気汚染の除去等が先づ考えられます。

とくに、酸素は人間の生命維持に不可欠のもので、昨年林野庁でまとめた推計によりますと日本全体の樹木による酸素